

事業報告書及び収支決算報告書

(平成22年10月1日～平成23年9月30日)

I. 事業報告

1 「第21回世界少年野球大会台湾大会」の開催

- (1) 大会趣旨 「野球を正しく全世界に普及・発展させると同時に世界の青少年に友情と親善の輪を広げる」という財団設立の趣旨を実現することを目的に開催した。
- (2) 主催 財団法人世界少年野球推進財団
高雄市政府
台北市政府
財団法人日本野球連盟
- (3) 主管 国際野球連盟
- (4) 後援 財団法人中華民国建国100周年基金会
行政院体育委員会
財団法人全日本軟式野球連盟
財団法人東京都軟式野球連盟
中華民国棒球協会
財団法人交流協会
- (5) 協力 全日本アマチュア野球連盟
日本プロフェッショナル野球組織
アメリカ・メジャーリーグ・ベースボール
日本航空株式会社
- (6) 協賛 株式会社エバーライフ アサヒ飲料株式会社
カシオ計算機株式会社
ジャパンローヤルゼリー株式会社
セコム株式会社 ソフトバンクグループ
大正製薬株式会社 株式会社デサント

株式会社東京ドーム	株式会社東芝
TOTO株式会社	ナガセケンコー株式会社
西川産業株式会社	ミズノ株式会社

(7) 協力会社 日新航空サービス株式会社
株式会社千修
株式会社博報堂DYメディアパートナーズ

(8) 大会概要 世界18か国・地域から参加した少年少女168人が8つのグループに分かれて野球教室に参加して野球の基本を学んだ。また、台湾の少年チーム10チームと、東京都軟式少年野球選抜チーム「オール東京」と台湾日本人学校チーム「サムライファイターズ」が国際交流試合を行った。野球教室は午前中に行い、午後の交流行事で子どもたちは高雄市の文化や歴史を学ぶとともに、交流を深めた。

(9) 期 間 平成23年7月29日（金）から8月4日（木）まで

(10) 会 場 高雄市澄清湖棒球场 高雄市立三民高中棒球场
高雄市鳳山慢速壘球場 台北市青年公園棒球场

(11) 宿 舎 高雄市澄清会館 正修学生宿舍 台北市劍潭活動センター

(12) 参加者 1. 野球教室 168名（日本24名、台湾66名、他の参加国・地域は各5名）

2. 国際交流試合

オール東京	19名
サムライファイターズ	22名
屏山小学校（高雄市）	19名
忠孝小学校（高雄市）	19名
鼓岩小学校（高雄市）	19名
復興小学校（高雄市）	19名
中正小学校（高雄市）	19名
壽天小学校（高雄市）	17名
長安小学校（台北市）	17名
社子小学校（台北市）	17名

東園小学校（台北市）	20名
福林小学校（台北市）	19名
3. IBAFコーチ	9名
4. ホストスタッフ	54名
5. シャペロン	21名
6. アシスタントコーチ	18名
7. 国際交流試合担当者	46名
8. 交流行事協力者	150名
9. 大会役員、事務局	58名

（13）参加国・地域

- 【米 州】 アメリカ合衆国 カナダ プエルトリコ メキシコ
ニカラグア
- 【アジア】 香港 大韓民国 タイ 台湾 日本 フィリピン
- 【欧 州】 ドイツ イタリア オランダ スイス
- 【大洋州】 オーストラリア ニュージーランド
- 【アフリカ】 南アフリカ

（14）日 程

- 7月27日（水） 各国少年少女到着 受付 用具配布
交流試合チーム到着
- 28日（木） 参加者オリエンテーション 用具配布
ウエルカムパーティー（福華大飯店）
- 29日（金） 記念撮影（高雄市澄清湖棒球场）
開会式（同）
交流試合①（同）
野球教室①（高雄市立三民高中棒球场
高雄市鳳山慢速壘球场）
- 30日（土） 野球教室②（高雄市澄清湖棒球场
高雄市立三民高中棒球场）
交流試合②（台北市青年公園棒球场）
交流行事①（高雄市海洋観光）

- 美濃客家庄教学農場で客家文化体験)
- 31日(日) 野球教室③(高雄市澄清湖棒球场
高雄市立三民高中棒球场)
交流試合③(台北市青年公園棒球场)
交流行事②(国立科学工芸博物館見学)
- 8月1日(月) 野球教室④(高雄市澄清湖棒球场
高雄市立三民高中棒球场)
交流試合④(高雄市澄清湖棒球场)
交流行事③(高雄市海洋観光
美濃客家庄教学農場で客家文化体験)
- 2日(火) 野球教室⑤(高雄市澄清湖棒球场
高雄市立三民高中棒球场)
交流試合⑤(高雄市澄清湖棒球场)
交流行事④(岡山皮影戲館見学)
グッドウィルパーティー(福華大飯店)
記念パーティー(福華大飯店)
- 3日(水) 野球教室⑥(高雄市澄清湖棒球场
高雄市立三民高中棒球场)
閉会式(高雄市澄清湖棒球场)
オール東京帰国
- 4日(木) 各国少年少女帰国

2. JA全農WCBF少年野球教室の開催

全国農業協同組合連合会(JA全農)の特別協賛事業として、財団が主催して毎年開催している野球教室。雪印メグミルク株式会社とJA全農チキンフーズ株式会社、JA全農たまご株式会社、JA全農ミートフーズ株式会社の4社の協賛を得ている。

プロ野球OBの講師が、少年野球の指導者に正しい指導法を教え、子どもたちにはポジション別に投手、捕手、野手に分けて、投げる、捕る、打つ、走る、の基本を指導した。また、日本オリンピック委員会強化スタッフのトレーナーが、肩やひじの障害を予防するトレーニング方法や成長期にある子

どもたちの体づくりの基本を指導した。

平成23年度は次の6か所で開催したが、東日本大震災の被災地の宮城県角田市で開かれた野球教室には、王理事長が講師として参加し、被災地の野球少年を励ますとともに、野球の技術を教えた。6か所の開催地のうち4か所では、管理栄養士が母親を対象に栄養講座を開いて食育の重要性を話した。テーマは「成長期にある野球少年の食事について」。野球少年を持つ母親たちから感謝された。

1) 河南町教室

期 日 平成22年10月23日(土)
会 場 大阪府南河内郡河南町・ぷくぷくドーム
講 師 水上善雄(元日本ハム二軍監督)
市川和正(横浜OB)
屋鋪要(巨人OB)
川口和久(巨人OB)
吉田直人(日本オリンピック委員会強化スタッフ・トレーナー)
参加者 少年265名 指導者33名

2) 中津教室

期 日 平成22年11月13日(土)
会 場 大分県中津市・中津総合運動場野球場
講 師 水上善雄(元日本ハム二軍監督)
市川和正(横浜OB)
屋鋪要(巨人OB)
川口和久(巨人OB)
吉田直人(日本オリンピック委員会強化スタッフ・トレーナー)
奥井智美(管理栄養士)
参加者 少年223名 指導者19名 父母20名

3) 田辺教室

期 日 平成22年11月23日(祝)
会 場 和歌山県田辺市・市立市民球場
講 師 水上善雄(元日本ハム二軍監督)
市川和正(横浜OB)
屋鋪要(巨人OB)
阿波野秀幸(近鉄OB)

吉田直人（日本オリンピック委員会強化スタッフ・トレーナー）
海老久美子（立命館大学スポーツ健康科学部教授）

参加者 少年148名 指導者50名 母親36名

4) 豊浦町教室

期 日 平成23年6月26日（日）

会 場 北海道豊浦町・町民グラウンド

講 師 水上善雄（元日本ハム二軍監督）

市川和正（横浜OB）

屋鋪要（巨人OB）

西崎幸広（日本ハムOB）

吉田直人（日本オリンピック委員会強化スタッフ・トレーナー）

海老久美子（立命館大学スポーツ健康科学部教授）

参加者 少年168名 指導者36名 母親43名

5) 角田教室

期 日 平成23年7月9日（土）

会 場 宮城県角田市・市野球場

講 師 王貞治理事長

水上善雄（元日本ハム二軍監督）

市川和正（横浜OB）

屋鋪要（巨人OB）

阿波野秀幸（近鉄OB）

吉田直人（日本オリンピック委員会強化スタッフ・トレーナー）

海老久美子（立命館大学スポーツ健康科学部教授）

参加者 少年172名 指導者20名 母親19名

6) いなべ市教室

期 日 平成23年9月18日（日）

会 場 三重県いなべ市・員弁運動公園野球場

講 師 水上善雄（元日本ハム二軍監督） 市川和正（横浜OB）

屋鋪要（巨人OB） 阿波野秀幸（近鉄OB）

吉田直人（日本オリンピック委員会強化スタッフ・トレーナー）

阿部菜奈子（管理栄養士9

参加者 少265名 指導者53名 父母33名

3. 三井ゴールデン・クラブ野球教室

野球少年が過度の練習などでけがをしない正しい練習方法や指導方法を、実技と講義を通して少年野球チームの指導者に身につけてもらうのを目的とした野球教室。

年間を通して優れた守備をしたセ・パ両野球連盟の選手たちに毎シーズン後、「三井ゴールデン・クラブ賞」を贈っている三井広報委員会（三井グループ企業24社で構成）の主催で、東京都軟式野球連盟が共催。財団法人世界少年野球推進財団が特別協力。講師は全員、三井ゴールデン・クラブ賞の受賞者。

期 日 平成23年2月27日（日）
会 場 神宮外苑室内球場
講 師 大矢明彦（元横浜ベイスターズ監督）
水上善雄（元日本ハム二軍監督）
屋鋪要（巨人OB）
阿波野秀幸（近鉄OB）
吉田直人（日本オリンピック委員会強化スタッフ・トレーナー）
参加者 指導者130名

4. 墨田区営錦糸町公園野球場落成式WCBF少年野球教室

東京都墨田区のJR錦糸町駅近くに今年4月にオープンした墨田区営錦糸町の墨田区営錦糸町公園野球場の完成を記念して開かれた少年野球教室。落成を記念して、王理事長が落成式に出席して祝辞を述べた。野球場近くには昨年4月、墨田区総合体育館が開館し、体育館の二階には王貞治理事長の功績をたたえた「王さんコーナー」が常設されている。

期 日 平成23年4月30日（土）
会 場 墨田区営錦糸町公園野球場
講 師 水上善雄（元日本ハム二軍監督）
市川和正（横浜OB）
屋鋪要（巨人OB）
阿波野秀幸（近鉄OB）
参加者 325名

5. 会報の発行

WCBF会報第36号及び第37号を発行し、財団の事業内容や活動状況を広報し、併せて協賛企業や寄付者（社）、法人会員、個人会員、構成団体会員を募った。

様式 B5判 カラー印刷

ページ数 36号が36ページ（第20回東京大会記念号として増ページ）
37号が24ページ

発行部数 各5,000部

発行日 36号（平成22年10月1日付）
37号（平成23年4月1日付）

配布先 世界少年野球大会参加者

協賛企業 寄付者 WCBF会員（個人、法人、構成団体）

マスコミ 関係官庁 野球団体 その他

6. グッズの収益事業

財団がサンリオのキャラクター、ハローキティを生かしたプロ野球球団のぬいぐるみやキーホルダー、タオルなどのグッズの販売を始めて11年になるが、今期の売り上げは対前年度比10%減と大きく落ち込んだ。2けた台のマイナスは、販売を始めて以来、初めてのこと。

これは、東日本大震災の影響でプロ野球の開幕が大幅にずれ込んだうえ、試合日程が変則的になったのが影響した。例年、開幕時の販売は夏休み、ゴールデンウィークに次ぐ売り上げを記録してきたが、開幕直前の大震災が買い控えムードを生み、売り上げ減少となった。12球団すべての球場での買い控えムードは5月まで続き、6月に入ってから売り上げを持ち直して売上高を押し上げたが、シーズン当初の大幅な売り上げ減をカバーすることが出来なかった。

そんな中で、チームの成績が良かったセ・リーグのヤクルトの本拠地・神宮球場での販売が好調で、パリーグの西武ライオンズのホームグラウンド・西武ドームでの売り上げが前年を大きく上回った。また、福岡ソフトバンクホークスの本拠地福岡ドームでは、今シーズンから12球団すべての商品を販売していただき、売上高が前年を上回った。12球団すべての商品の販売は札幌ドーム、東京ドーム、ナゴヤドーム、京セラドーム大阪に次いで5か所目。

以上